

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryō UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 岡山大学大学院教育学研究科・岡山県教育委員会・岡山市教育委員会
※機構記入欄 No. : -	セミナー名：【NITS カフェ in 岡山】 学校保健の視点で捉える危機管理 —危機管理実践から学ぶ PDC と A の往還—
テーマ： 学校現場で起こりうる危機を捉える視点を持ち、状況設定・限られた資源の活用による現状を整理分析し、今後起こり得る事象を予測できるためのプロセス理解をテーマとした。事例分析や机上シミュレーション訓練で判断力と対応力、連携の方法について、講義とワークにより手法と評価法の理解を深め、予防的対応に導く。第1回目終了後、2回目にむけた課題として、自校の危機または改善したい事象の計画に取り組み、実践の振り返りと分析の視点に役立つよう設定する。第2回目は、提出された課題から、それぞれの実践による PDC と A の往還の理解を深め、活用する力量を高めるよう展開し教諭の資質向上を目指した。	
内容： 【第1回目（9月22日）】 学校保健・学校安全の法律と学校現場での現状について、講義を行った。学校におけるリスクマネジメント、クライスマネジメント（以後「危機管理」）体制の総論と、具体例として、平成26年8月広島市豪雨土砂災害、平成30年8月西日本豪雨災害の状況と対応・課題について説明を行った（講師 宮本香代子教授）。その後、演習形式により、「熱中症への対応」、「不審者対応」、「感染症対応」の3テーマを、80分間のローテーションにより、参加者が全ての内容を経験できるよう配慮し、グループディスカッションを実施した。それぞれのテーマは、学校現場で起こりうる状況設定により、実践をイメージしながら限られた資源の活用による机上シミュレーション訓練で判断力と対応力、連携の方法について、ファシリテーターの助言とワークにより、その手法と評価法の理解を深めた。 【課題】 学校安全における自校の課題または取り組みたいテーマを設定し、「どのような状態を目指したいか」、「具体的な方策」、「方策を実現するために生じる課題」、「望ましい結果」について A4 1 枚（表）にまとめて提出。 【第2回目（11月10日）】 講義により、本日の演習のねらいとして、「Planを軌道修正するAction」、「あらたなPlanに向けたAction」「何を Check しているのかを意識する」PDCA の循環と、そのことを踏まえた年間計画の具体的な立案の方法について説明を行った（講師 上村弘子准教授）。4グループにわかれ、それぞれが取り組んだ自校の課題について、目標と望ましい結果を発表し、質問と自分の学校の取組みの状況や工夫について、ディスカッションを行い、グループで取り組む1課題を選択した。午後より、各グループで選択した1課題の年間計画を立案し、全体発表を行い、質疑応答とファシリテーターの助言を行った。	
成果： 参加者（20名）からは、危機管理実践における PDCA の具体的な取り組みや展開・連携に関する学びに関する高い満足が示された。「様々な要素がちりばめられた演習で、新しい知見を得るとともに、先生方の実践を共有できてよかった」、「現場で実際におこっている課題を様々な観点からとらえ直すことができた」、「他校の事例をきくことで本校にも通じて勉強になった」、「校種の異なる先牛方と一緒に討論することで視野が広がった」、「自校で取り入れたいアイデアもいただいた」、「自校での改善に活かすのみならず、この手法を地域の教員研修としても役立てたい」、「こんなに頭を使う演習は経験がなかった。疲れたけどリフレッシュできた」と感想にあるように、本カフェの目的は達成できたと考えられる。	
アイデアや工夫したこと： <ul style="list-style-type: none">・児童生徒の生命を守ることを基盤とした倫理観に基づいた安全管理義務としての多面的な視点を持ち、様々な状況を設定し提示したグループワーク、机上シミュレーション等、内省的、視覚的な思考となるよう実施した。・具体的な目標を設定できるようスモールステップで、学校内連携を意識する計画の設定を考慮した。・次年度の計画に盛り込む「しかけ」をイメージできる内容を意識した。	

<写真・図など>

<第1回目 2018年9月22日>



学校保健・学校安全に関する講義の様子（宮本教授）



オリエンテーション（棟方准教授）



終わりの挨拶とラーニングポイント制の説明（三村教授）



演習1「熱中症」で事例から気づきを得ること
対応のために必要な連携や体制について討論



演習2「不審者対応」で事例から時系列に
よってリスクとクライシスの実際について討論



演習3「感染症」で事例から対応の実際につ
いて児童と教員の動きを机上訓練により討論

<第2回目 2018年11月10日>



PDCとAの往還を意識し、すすめる方法につ
いて説明（上村准教授）



それぞれが取り組んだ課題の発表と共有
（4グループ）



年間計画の立案ワークの説明（松枝教授）



グループで課題を1つ選び、年間計画を立案



グループ発表（テーマから具体的な取り組む内
容と担当教員、連携の方法などから、期待する
結果を説明）質疑応答



グループ発表（テーマから具体的な取り組む内
容と担当教員、連携の方法などから、期待する
結果を説明）質疑応答